

平和へのキックオフ

一宮市立尾西第一中学校 三年 浅野秀維

息を飲んだ。瞬きもせず。僕は、テレビ画面に見入った。そこには、瓦礫が散乱しフェンスもぐちゃぐちゃになった。サッカー場が映し出され、多数の人が救急車で運ばれていた。イスラエル占領下のグラニ高原にあるサッカー場にロケット弾が着弾し、十二人の子供や若者が殺害され、負傷者も多数出た。こんなことがあっているのだろうか。僕と同じ

未来ある子供達が犠牲になるなんて辛すぎる。日頃サッカーをしている僕は、自分の身に置き換え、そして怖くなり震えた。

平和の祭典であるオリンピックが開催され連日サッカー等で多くの人に感動を与えている一方、こんなにも悲惨な戦いが起きている地域がある。同じ地球上のことは思えない。恥ずかしながら、僕は地球上のどこかで今なお戦争が続いていることは知っていたが、その原因や理由について理解してなかった。

正確に言うとしていなかった。どこか遠い国の話で自分にはあまり影響がないかな、なんて軽く考えていた。調べていくといスラエルとパレスチナの問題は、簡単には答えの出せない古くからの難問だということがわかった。そして、今回の戦争もこれまでと同じく数か月で停戦するかもしれない。けれども、それは平和になっただけではない。再び大きな世界大戦に発展させないためにも、世界から切り離されたガザ地区を「地球の課題」だと考え、向き合っていく国際社会にならないといけないと思った。とはいえ、中学生の僕にはなにができるだろうか？

先日、サッカーの試合中に僕は足が吊った。すると相手校の選手が駆け寄って足を伸ばして助けてくれた。うれしかった。また別の試合の時、今度は相手校の選手が負傷した。前の経験を受けた僕が今度は手を貸して「大丈夫か？ お互い頑張ろうな」と声をかけた。自然にできた。監督の教え通り相手をリスペク

人する気持ちがあつたからだと思う。すると
試合後に相手チームから感謝のメールと共に
その時の写真画像が学校に届いた。これもま
たうれしかった。お互いを尊重し合えたよう
に思えた。結果は負けて悔しかったが、清々
しい気持ちが残った。戦争ではなく競い合い
敵ではなくライバルだから。サッカーができ
る平和な今に感謝した。

僕ができる平和とは、互いに尊重し合い、
助け合い、伝え合うことだと思う。お互いを
尊重し合える社会が広がれば戦争や紛争が減
るのではないだろうか。戦争がなくなり地球
上のすべての人々が安心して楽しく過ごせる
よう、相手のことを思いやる行動や発言をし
考え方を共有できる社会をつくり上げたい。
差異を超えて人と人が手を取り合えるそんな
社会を生きていきたい。
知らない、わからないじゃない。ひとりひ
とりが戦争について考えてみてほしい。それ
が平和へのキックオフだと思ふから。